

# 進路情報

(のぞみ)

## 希望 17号

令和 6年 7月24日 (水)

那覇市立松城中学校

## 《全学年》諦めなければ必ずチャンスが訪れる (天野 篤)

### 県立高校「一般選抜」合格者の決め方

県立高等学校の入学者選抜は、「特色選抜」と「一般選抜」が行われます。基本的に全員が出席する「一般入試」では、どのようにして高校側は合格者を決めているのでしょうか。少し詳しく説明しておきたいと思います。

#### Q1. 何をもとに決めるのか？

一般選抜では、「調査書」の内容と、当日の「学力検査」の結果になります。

調査書には、各学年の評定(5段階)、観点別評価(AにはO)、総合的な学習について、特別活動・普段の生活の様子について、部活動や表彰・資格の取得状況、健康状況、出席状況が記載されています。

この中でも確実に用いられるものが、各学年の評定(いわゆる内申点)になります。各教科5・4・3・2・1で学年ごとに表記されていますが、実技教科(音、美、体、技家)については各学年とも1.5倍して活用します。ですので、学年ごとの内申点は

$$\boxed{5 \text{教科の合計}} + \boxed{4 \text{教科の合計} \times 1.5} = 55$$

(25) (20×1.5=30)

となり、その3年分で、内申点の合計は「165点」になります。

なお、観点別評価のOの数も数え、合否の参考をしている高校もあるようです。評定が高ければ、それだけA評価も多くなります。普段の授業への取り組みで、目標とする内申点に達するための準備をしておきましょう。

また、当日の学力検査は各教科60点満点なので、60点×5教科=300点満点となります。高校・学科によって、学校独自の付加問題や実技テストが行われる高校もあります。

その他にも、「特別活動・行動の記録」や、「出席・健康の状況」など、最終的な判断の際に用いられることが多く、調査書の内容はしっかりと高校側で確認されているようです。

#### Q2. 内申点とテスト、どちらが重要？

一般選抜では、内申書と学力検査の割合は「原則 5 : 5 (同じ割合)」となります。一部の高校で教育委員会への申請を行い、その割合を変更しています。

(R06年度入試での割合変更(那覇市周辺))

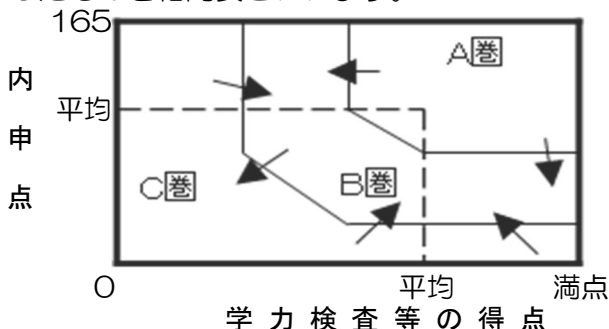
※割合は、「調査書」：「学力検査」

- ① 那覇国際高校 4 : 6
- ② 首里高校 4 : 6
- ③ 首里東高校 4.5 : 5.5
- ④ 開邦高校 4 : 6
- ⑤ 那覇高校 4.5 : 5.5

割合が変更になっても、普段の学習と当日の実力の両面で判断する形式になっています。

#### Q3. どのように合格者を決めるのか？

各高校で少しずつ違いはあるようですが、それぞれの偏差値(平均を「50」とする計算方法)を合計する方法があります。この方法だと、内申点の平均と学力検査の合計点の平均を合わせた合計が100点となり、内申点・学力検査の得点を同様に扱え、合計点の高い人から順に合格となります。内申点と得点をグラフ化したものを相関表といいます。



相関表のA圏に入る人数が、上位から約85~

95%、B圏が約110%だと言われています。しかし、合格者はここですぐに決定するわけではありません。

それは、合格者の最終決定の前に、「審議事項の有無」というものをチェックするためです。相関表の中にも矢印がありますが、場合によっては、A圏（合格）からB圏（審議）へと移動する場合があります。

審議事項とは、各高校が「志願者が入学したときに高校生活を続けられるかどうか」を判断するための事項です。その内容は、出席状況（欠席・遅刻）やその他（特別活動・行動の記

録、健康状況など）があります。非常によい実績（表彰や資格取得、学校生活等における頑張り）がある場合は、上の圏へ移動することもあるようです。

また、学力検査等の得点には、付加問題（開邦）や、実技テスト（開邦芸術科・那覇西体育科、西原普通科健康科学コースなど）の得点も含まれていきます。

最後に、面接についてですが、そこではみなさんが3年間高校で頑張っていくことができるか、服装面や受け答えなどに問題はないか、などの判断に用いられています。

## 「評定」を上げるには？ → 普段の取組を大切に！

那覇市内の学校は2学期制のため、まだ通知表の成績（評定）が出ていません。各学期の評定は、授業中の課題や提出物、テスト（定期・単元・確認など）の状況を単元ごとに3つの観点別で評価し、その組み合わせ（那覇市内中学校は統一）で決まります。

「評定」って？

・「観点別評価⇒評定」

	単元1	単元2	...	単元〇	観点別評価
知識技能	A°	B	...	B	A
思考判断表現	A	A°	...	B	B
態度	A°	A	...	A°	A°

観点の組み合わせ	評定
A° A° A°、A° A° A	5
A° A A、A° A° B A A A、A° A B	4
A A A、A° B B A A B、B B B B B C°、A B C B B C°、B B C	3
B C° C°、C° C° C° B C C°、C° C° C	2
C° C C°、C C C	1

通知表では、「1学期」「2学期」の評価・評定に加え、「学年末（年間）」の評価・評定も記載されます。これは1年間の各単元の評価を総括したものなので、2学期から頑張っても挽回が難しいということを示しています（逆に、2学期で成績を下げてしまうことも考えられます）。

・調査書の「評定」⇒「1年間のまとめ」

	単元1	単元2	...	単元〇	1学期評価	単元△	単元□	...	単元☆	2学期評価	学年末評価	学年末評定
知識技能	A°	B	...	B	A	B	C°	...	B	B	B	
思考判断表現	A	A°	...	B	B	A	A°	...	B	B	B	3
態度	A°	A	...	A°	A°	A	B	...	A	A	A	

1学期評定⇒「4」      2学期評定⇒「3」

夏休みの課題や期末テストの範囲が、夏休みのしおりで配布されています。まずは9月の「期末テスト」に向けて7月までの学習内容を丁寧に復習すること、そして各教科から出ている課題にしっかり取り組んで、確実に提出していくことが成績（内申点）の向上につながります。